

活性型レニン濃度		7452002			
		担当部署			
ARC		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		測定値の評価には体位や安静時間を考慮する必要があるため、依頼医の指示に従うこと。			
検体採取の特別なタイミング		医師の指示があれば、指示どおり。			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		血漿中活性型レニン濃度の参考基準範囲は 2.21～39.49pg/mL ルミパルス レニン試薬添付文書				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	pg/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		PRA は加齢とともに低下し、高齢者では低値を示す。一方、新生児では高値を示し、12 歳頃までに成人値となる。 また、男性で高値と性差を示し、レニン分泌は交感神経系の調節を受けるために、夜間睡眠時に比して、早朝から昼間に高値を示す日内変動がある。				
臨床的意義		レニンは腎臓の傍糸球体細胞で産生されるプロテアーゼであり、血中では活性型または不活性型（プロレニン）として存在する。 活性型レニンはアンジオテンシノーゲンをアンジオテンシン I に変換し、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系を介して電解質の恒常性・循環血液量・血圧の維持に重要な役割を果たしている。 活性型レニン濃度測定は原発性アルドステロン症や腎血管性高血圧症などの二次性高血圧の診断・鑑別に有用である。 本試薬は化学発光基質 (AMPPD) を用いた化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA ; chemiluminescent enzyme immunoassay) に基づく試薬である。 ルミパルス レニン試薬添付文書				